

巻頭言

「月探査新人募集」

月周回探査衛星SELENEは最終試験が筑波宇宙センターで開始されています。衛星が筑波宇宙センターの環境試験室に立ち上がっているのを見ると打上が現実味を帯びてきます。当初の計画は平成10年計画開始、16年打上というものでした。その後NASDA・ISASの衛星打ち上げ失敗などにより計画の遅延が繰り返され、現在は2007年打上でフライトモデルの試験を開始しています。この間月探査を取り巻く世界情勢は大きく変化し、「月ラッシュ」が訪れようとしています。アメリカの新宇宙政策では、有人月基地を作るための極域精査、低高度リモセンと直接探査が計画され、2008年から月探査を開始します。また、中国、インドも国の威信をかけて07年、08年に月周回衛星を打上げるため準備をしています。今春、イタリアが月レースに参戦することを表明しました。ヨーロッパはSMART-1という技術実証衛星が現在月周回観測をしています。今後の月探査計画は従来なかったので、イタリアの参戦でヨーロッパもということになります。SELENEの観測との棲み分けが上記のアメリカの計画にはあります。また、インド・中国ではSELENEの観測機器のスペックが目標に考えられています。イタリアの計画はインドのロケットを使うということ以外にはまだ詳細がわかっていませんが、ヨーロッパにも月に興味を持つ研究者は多く、共同開発の手を挙げる国々が出てくるでしょう。

さて、将来の月・火星探査、それを越えた惑星領域の探査へ至るわが国の探査計画が立てられています。第一号機SELENEに新人の参加を呼びかけます。メンバーが必要なのはこれからです。もちろん度重なる計画の延期にも負けないで観測機器作製にがんばってきたチームメンバーは数多くいますが、実際の月周回観測やデータの解析に何倍もの人数が必要になります。そこでの経験が次のミッションの策定にも必ず生かされます。将来、月惑星探査をやりたいと思っている人はSELENEチームに声をかけ、参加することを勧めます。私たちの若い頃には望んでも実現できなかった大きなチャンスです。

加藤 學（宇宙航空研究開発機構）